

## 1. アプサラ総裁 Vann Molyvann 閣下、第1回大林賞受賞

大林都市研究振興財団は平成10年9月に文部省より設立が認可された新しい財団である。同財団は都市の抱える諸問題の解決に向けて画期的な業績をあげた研究者に贈与される賞を設定した。第1回受賞者 Vann Molyvann 閣下は1970年より戦乱で荒廃したカンボジアの復興にあたって、文化遺産を修復活用したうえ都市機能を回復させ、観光による文化の再生に大きく寄与した。授賞式は2000年7月3日(月)午後4時~5時30分、品川の大林組本社ビル3階で厳かに行われ、受賞者の特別講演があり、その後記念祝賀会が開催された。調査団からは顧問今川幸雄前カンボジア大使、石澤良昭、坪井善明、片桐正夫の3先生が出席した。

## 2. クレーン車 (TOYOTA Dyna Crane Truck 01 Unit) 到着の件

かねてから西参道工事に必要なクレーン車の件、1999年8月12日、文化芸術省へ協力協定に基づく免税措置を上申中であったが、12月25日付でカンボジア税関局の承認を得て、今年1月6日に正式に発注した。クレーン車は6月にカンボジアに到着、諸手続を経て6月21日に無事研修所到着、22日から工事現場で使用されている。

## 3. 学生が参加するアンコール・ワット緑陰講座と清掃活動

上智大生約20名と自費参加者(関西学院大学高等部)約5名、そしてアンコール研修所のカンボジア人研修生6名が合同で、アンコール・ワットなど16遺跡の清掃活動を実施することになった。期間は8月27日(日)~31日(木)までの5日間 集合場所はアンコール研修所。航空運賃は参加者が支弁。トンレサップ湖岸の実踏、考古・建築・窯跡の作業現場を見学、村落訪問も行う予定。

## 4. 人材養成プロジェクト

### (1) Nhim Sotheavin 君

Sotheavin 君(1996年王立芸術大学考古学部卒。国籍カンボジア。27歳)を1999年度上智大学推薦文部省奨学生候補として推薦中であったが、文部省から1999年8月31日付で許可が下り、10月12日に来日した。同君は上智大学大学院地域研究研究生となり、日米会話学院日本語科で勉強していたが、2月22日の大学院修士課程入学試験に見事合格した。現在1年生として在籍中。指導教授は石澤。

同君は4月1日の入学式後に腹痛で都立大久保病院に緊急入院、腎不全が発覚、現在も食餌療法と週3回の通院を続けている。授業には出席している。

### (2) Chhean Ratha 君の件

調査団は4年間の現場研修を受けてきた同君を神奈川県海外技術研修員として推薦していたが、今年1月10日付で採用が決まり、5月17日に来日、県研修センターで「コンピューターによる古寺院の保存方法」を学ぶことになった。8月下旬までの3ヶ月間は日本語研修。期間は10ヶ月間。指導教授は片桐正夫先生。

### (3) Keo Kinal 君

かねてから東京芸術大学の益田兼房教授に同大学推薦による文部省留学生候補生として同君をお願いしていたが、幸いにも1999年12月26日付で許可され、今年1月29日に来日、芸大の研究生として益田教授の許で日本語の特訓を受けている。2001年2月には同大学院文化財研究科修士課程の入学試験に挑戦する。指導教授は益田兼房先生。

### (4) ID/Vanna 君と Hor Sukuntheary 嬢

Vanna 君は2月2日に上智大学大学院地域研究専攻に修士論文「Samrong Sen, early workshop of material culture in the flooded area of Tonle Sap」を提出した。Sukuntheary 嬢は修士論文「Contemporary Pottery Making in Cambodia, case study on Cambodian rural community in Phum Andong Russey Kompong Chhnang Province」を提出した。両君には今年の2月17日に口述試験があり、Aランクの評価を受けた。

その前の1999年12月に両君と面接し、両君は強く博士課程への進学を希望していた。両君の留学諸費用は宗教法人真如苑から奨学金として支給されており、最初の3年に限って支給と取り決められていた。両君の希望を実現するために真如苑と再度話し合い、「延長の願い」文書を提出した。数回の協議を重ねた結果、さらに3年にわたり博士課程在学中の奨学金の支給がなされるようになった。両君とも2月22日の同大学院博士課程入学試験に見事合格。両君の指導教授は石澤。

現地調査を兼ねてカンボジアに帰国中であった Sukunthea 可嬢は、6月15日にめでたくプノンペンにて結婚式を挙げた。情報通によればたくさんの知友、親戚に囲まれて幸福そのものであったという。この後コンボンチュナン州の調査地に入る予定。

## 5. 「アンコール遺跡の解明シリーズ」全4巻のうち2冊を刊行

これまで調査団の研究成果をやさしく一般の人にも分かるように社会還元しようという趣旨で企画されていたが、下記の通り第1巻と第2巻が刊行された。

2000年4月5日：盛合禧夫編著『アンコール遺跡の地質学』連合出版（シリーズ第2巻）

2000年4月25日：中尾芳治編著『アンコール遺跡の考古学』連合出版（シリーズ第1巻）

第3巻片桐正夫編著『アンコール遺跡の建築学』、第4巻坪井善明編著『アンコール遺跡と社会文化発展—遺跡・住民・環境—（仮題）』が続刊される。

## 6. カンボジア王国政府から4万ドル受領の件

調査団は前年に引き続き APSARA に対してカンボジア人材養成プロジェクト（カンボジア人研修生、石工、作業員等の人件費）について補助金を申請中であったが、2000年6月21日付で4万ドルの交付を受けた。人件費支払いの適用期限は2000年6月1日より2001年5月31日までの1年間である。現在の状況は研修生9名、石工17名、作業員10名であるが、王立芸術大学生の研修などにも支出される。

## 7. ICC（国際調整委員会）開催の件

2000年6月20日（火）、プノンペンのカンボジアナホテルで会議が開催された。出席者は36カ国82名であったが、調査団からは石澤良昭、片桐正夫、荒樋久雄、三輪悟、田代亜紀子、遠藤宣雄であった。同調整委員会では3本の報告書が提出された。以下の通りである。

1) Detail of Restoration Work on the Western Causeway of Angkor Wat, by Prof. M. Katagiri

2) The 6th Survey of Tani Klin Sites, by Prof. M. Sasaki

3) The 29th Excavation and Investigation of Banteay Kdei Summary Report, by Group of Archaeology

## 8. 朝日サンツアー主催

「アンコール・ワットの王道を訪ねる - アンコール王朝の時間と空間を検証する南船北馬の旅一」の件  
期間：2000年11月29日～12月8日（8日間）、案内役：石澤。研修所において「出土品水洗い」体験、「アンコールの建築学」、「アンコールの考古学」、「アンコールの陶磁器」などの講座が開かれる予定。旅程は NRT BKK Pimai Panon Run - Preah Vihear Pakset - Vblt Phu - PNP-SRP - Angkor Wat - PNP-Phnom Da - Angkor Borei PNP BKK - NRT

## 9. NHK教育テレビ「視点論点」およびTBS「世界遺産」の件

(1) NHK教育テレビ「視点論点」

日時：4月19日（水）22時45～55分

テーマ：「第二のアンコールワット—王道と遺跡—」出演：石澤良昭

(2) TBS「世界遺産」200回記念番組

日時：4月30日・5月7日（日）23時30分～24時

テーマ：「アンコールの遺跡群」監修：石澤良昭

## 10. 「民話」プロジェクト

丸井さんを中心に民話プロジェクトが真如苑の支援で続けられている。2000年11月には『民話』第1巻が完成し、カンボジアの各小学校に配布する予定。

## 11. カンボジア国インターネット文字環境の改善プロジェクト

財団法人アジア・太平洋研究会と共同で、文字のコンピューター化研究会を続けている。調査団からは石澤、ラオ・キム・リアン氏が主査として参加している。

12．谷川茂氏がコーディネーターの NHKテレビ番組が放映

日時：7月25日（火）22～23時

テーマ：「世界紀行メコンの空に風船が舞うー」（NHKハイビジョン）

13．クレーン車（マエダ・ミニクロ・クレーン）購入申請の件

在プノンペン日本大使館から推薦していただき、草の根無償案件の一つとしてミニクロ・クレーン車を申請した。まだ諾否はわからないが、2020年度予算分としては可能性大であると聞いている。

14．高橋正時氏が4人目のUNVに応募中

かねてからワット西参道の工事要員としてUNVをお願いしていたが、受け付けていただけることになった。諾否はわからないが応募中である。

（文責 石澤良昭）